

## 特別支援コーディネーター連絡会沿岸3地区研修会

12月7日（水）、釜石高等学校を会場として、沿岸3地区（気仙・釜石・宮古）の教育事務所や小中学校の先生方等を対象に研修会が行われました。この研修会では、「特別な教育的支援を必要とする児童生徒等への円滑な教育支援」と題して岩手県教育委員会事務局の学校教育室「特別支援教育担当」五安城正敏指導主事よりご講義いただきました。

### ◆就学先決定のための3つのポイント

①十分な情報提供 ②本人・保護者の意見を最大限尊重すること ③合意形成

### ◆連続性のある「多様な学びの場」

障がい名やできないことに焦点をあてるのではなく、子どもの力を高めるために必要な学びの場はどこか検討してほしい。

### ◆個別の指導計画の活用

「きめ細かな指導を行う」ために作成されるという“目的”を再確認してほしい。活用のために作成されるもの。

## 第2回 沿岸3地区特別支援コーディネーター連絡会

研修会のあと、引き続き沿岸3地区教育事務所の指導主事、気仙光陵特別支援学校、釜石祥雲支援学校、本校の教員が出席し特別支援コーディネーター連絡会を開催しました。地域における引き継ぎの現状と課題をテーマに情報交換を行いました。

### 【気仙地区】

気仙版サポートファイル「つむぎ」を作成し、活用し始めた。障がいの有無にかかわらず作成する。母子手帳の拡大版のようなもの。支援者が変わる度に同じ説明をしなくて済むように活用していきたい。



### 【釜石地区】

引き継ぎに活用できるような「サポートファイル」の作成を検討しているところである。障がいの有無にかかわらず作成していきたいと考えている。

### 【宮古地区】

引き継ぎにPASSを活用している。幼・保、小学校の教員向けに活用のための研修を行っている。上手に活用している学校を参考例として紹介している。保護者への説明では、「こういう支援をすることによりこのようなことができる」という表記にし、就学先でも手厚い支援を得られるように作成するものだという点を強調している。